

アヌココロ アイヌ イコロマケシル ソンコ

アヌアヌ

国立アイヌ民族博物館ニュースレター



NATIONAL AINU MUSEUM

ANUANU

019

2025.3



図解編 / 正台図解編 / 図解編

サンタン交易とは何か？ 交易によってもたらされたものは？ アイヌ民族と他の先住民族との交流について紹介します。

詳しくは
2ページへ!



[第8回テーマ展示] ウイマムレプンカ サンタン交易と蝦夷錦

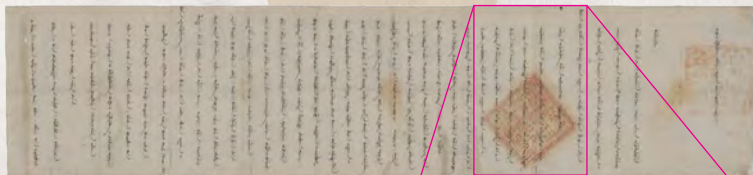
ミュージアムAction! / 基本展示室のこの展示を見て!!

調査研究最前線⑫ / 博物館Pickup! / 見て見て!園内サイン⑦

国立アイヌ民族博物館からのお知らせ / ウポポイってこんなところ⑩



蛾夷錦(朝服) (市立函館博物館蔵)



第一章

サンタン交易とは?

17~19世紀に

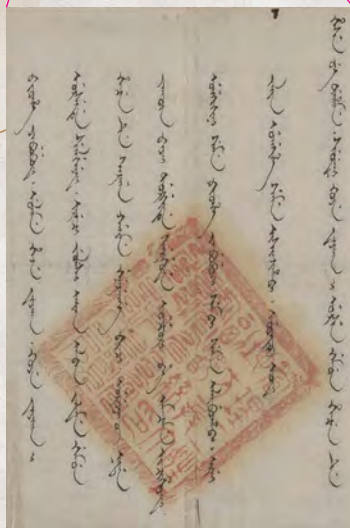
「北東アジアのシルクロード」

とも呼ばれたサンタン交易の

歴史的背景とその重要性を

紹介します。

重要文化財
カラフトナヨロ窓乙名文書(ヤエンコロアイヌ文書)
(北海道大学附属図書館蔵)



詳しくは国立アイヌ民族博物館ウェブサイト特設ページをご覧ください
<https://nam.go.jp/exhibition/floor2/special/ezonishiki2025/>



uymamrepunka: Sant

第8回テ

ウイマム

サンタン交

2025. 3.15(土) ~ 5.18(日)

国立アイヌ民族博物館 2階 特別展示室

休館日
毎週月曜日

※月曜日が祝日または休日の場合は翌日以降の
平日が休館日になります
※4/28(月)、5/5(月)、5/6(火)は開館。5/7(水)は休館

【主催】国立アイヌ民族博物館

【開催協力】市立函館博物館

【後援】公益社団法人北海道アイヌ協会、北海道新聞社

【協力】厚岸町教育委員会、釧路市中央図書館、釧路市立博物館、国立公文書館、浄心寺、東京国立博物館、東京大学史料編纂所、函館市中央図書館、北海道大学附属図書館、北海道立函館美術館、松前町教育委員会、立教小学校 相原秀起氏、池田留美子氏、小田寛貴氏、中村和之氏

関連 Event
イベント

開会記念講演会

「北方から来た交易民」

講師：佐々木史郎(国立アイヌ民族博物館館長)

日時：3/15(土) 14:00-15:00

講演会

「間宮林蔵が歩いた足跡を追う
樺太(サハリン)・アムール・択捉島へ」

講師：相原秀起氏(ノンフィクション作家)

日時：3/22(土) 14:00-15:00



an Trade and Ezonishiki
ーマ展示

レパンカ

易と蝦夷錦

北海道や樺太(サハリン)、ロシア極東地域の先住民族は、17~19世紀にかけてサンタン交易と呼ばれるネットワークを通じて様々なモノを流通させ、その交易ルートは「北東アジアのシルクロード」とも呼ばれています。このネットワークを通じてもたらされた代表的なものが、中国の官服である蝦夷錦・サンタン服やその反物です。本展示では、その蝦夷錦・サンタン服を中心に、ガラス玉や銭貨など、アイヌ文化にもたらされた中国製品と他の先住民族との交流について紹介します。

クロストーク

「サンタン交易の現場を語る」

講師：中村和之氏(函館大学教授)、
相原秀起氏(ノンフィクション作家)、
佐々木史郎(国立アイヌ民族博物館館長)

日時：5/3(土) 14:00-15:15

ギャラリートーク

本テーマ展示の担当者が、見どころを紹介する展示ツアーです。

第一回：3/29(土) 第五回：5/4(日)
第二回：4/12(土) 第六回：5/10(土)
第三回：4/19(土) 第七回：5/17(土)
第四回：4/26(土) ※各回 14:00-14:30



イタオマチフ
いたとしふね
板綴船(模型)(当館蔵)

第二章

蝦夷錦を運んだ
舟と櫂

蝦夷錦・サンタン服を運搬した舟や櫂などの交通手段を解説します。
また、
交易のルートとなった場所の現代の様子を映像で紹介します。



シヤク
笏入れ(当館蔵)



第三章

色いろな蝦夷錦・サンタン服

衣服として残る蝦夷錦や、衣服以外の形で作られた蝦夷錦、そして古文書や絵画に記録された蝦夷錦を紹介します。



ニンカリ 耳飾
(当館蔵)

第四章

ガラス玉と銭貨

サンタン交易を通じてもたらされ、首飾りや装身具としてアイヌ文化に取り入れられたガラス玉と、それらが果たした役割を紹介します。

詳しくは
当館ウェブサイトを
ご確認ください。



ミュージアムAction!

国立アイヌ民族博物館では、アイヌ文化の普及・啓発のため、さまざまな教育活動を行っています。その中で今号は、当館ライブラリとそのお仕事について紹介します。

見逃しがちな1階の奥、そこには……

国立アイヌ民族博物館1階、受付を抜けてさらに奥へ。ミュージアムショップを越えると見えてくる場所……。ぜひそこまで足をのばしてガラスの扉を押して入ってみてください。そこは「カンピソシ ヌカラ トンプ」※、ライブラリです！中にはアイヌ文化関連の図書だけではなく、世界の

先住民族や、動植物の図書など、合わせて約700冊を手にとることができます。もしお求めの図書が見つからない場合は、蔵書検索PCでさが探してみてください。置ききれない図書は閉架書庫に所蔵しておりますので、お探しの図書があるかもしれません。



ここがライブラリです



中ではゆっくりと読書を楽しむことができます



ライブラリで開催されたトークイベントの様子

ライブラリの裏側、閉架書庫って？

先ほど出てきた「閉架書庫」、普段は見ることのできない場所ですが、そこはどんな所で、何をしているのでしょうか？ 閉架書庫には電動書架が並んでいて、約7万冊の図書を収蔵することができます。そこでは図書を登録し、書架へ整理して並べていく作業などを行っています。その他にも、ライブラリには「保管」という役割があります。そのため、貴重図書などについては、閉架書庫で管理しています。これらは展示

に使われることもあり、みなさまとは展示室でお会いすることがあるかもしれません。今後はミニ展示の企画や蔵書の充実に加え、ライブラリでのイベントも増やしていく予定です！みなさま、ぜひ博物館にお越しの際には、ライブラリにもお立ち寄りください。

(司書 工藤綾華)



図書の登録中！



閉架書庫で管理している貴重図書



閉架書庫にもたくさんの図書があります

● ライブラリ利用案内 ●

- 開室日/博物館と同じ
 - 複写申込/9:30~16:00
 - 開室時間/9:00~17:00
 - 閉架資料請求/9:30~16:00
- ※貸出はしていません

※「カンピソシ ヌカラ トンプ」の意味は『ANUANU』vol.9「見て見て！館内サイン」⑨参照

基本展示室の この展示 を見て!!

テーマ展示と合わせて楽しむ

当館では年に複数回の特別展示・テーマ展示を開催しています。各展覧会と関連する資料は基本展示にもあります。特別展示やテーマ展示で取り上げられているトピックを意識しながら基本展示を見ることで、どちらの展示もより楽しむことができます。今回は「第8回テーマ展示 ウイマムレプンカ サンタン交易と蝦夷錦」に関連する展示の一部を紹介します。
(研究主査 小林美紀)

装飾品としての銭貨

サンタン交易の交易品の中には銭貨もありました。また和人社会から入ってくることもありました。貨幣としてではなく、装飾品として使用されました。女性にとって大切な道具である針を入れるチシポ(針入)や、マキリ(小刀)の装飾などに利用されています。

ウレシパ



チシポ(針入)



マキリ(小刀)

ネプキ

出土した イタオマチブ(板綴舟)

一本の木をくりぬいてつくった丸木舟に板を綴じて、側面を高くし、より大きくしたアイヌの舟で、「イタ(板)・オマチブ(舟)」といわれます。海を越えた広範囲な交流や沖での漁の際などに使用されました。厚岸湖からは、5.6mを超える板綴舟の底と側面に付けられた板、櫂が出土しています。

ウコアプカシ



イタオマチブ(板綴舟) 厚岸町教育委員会蔵

海辺の暮らし

樺太では、移動や荷物の運搬手段として、冬期は橇が重要な役割を果たしました。樺太アイヌは橇を犬にひかせました。そのため、裕福な家では犬を5、6頭から12、3頭飼っており、家の近くには犬つなぎ竿がありました。



海辺の暮らしのジオラマ

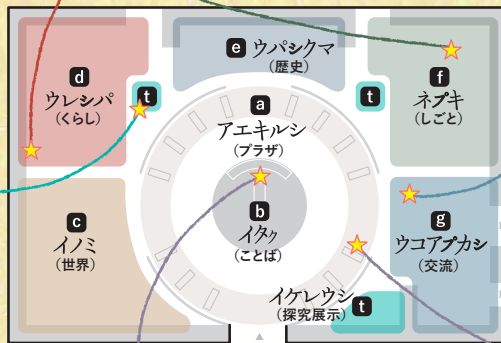
イケレウシ



あな、のぞこの穴を覗いてみると...



橇と犬つなぎ竿



ウイマム(交易)が語られる物語

交易に行く様子が語られる口承文芸は数多くあります。基本展示の映像で紹介している口承文芸3本のうち、散文説話と英雄叙事詩にもウイマムというワードが登場します。

イタク



英雄叙事詩「滝のカムイに育てられた
ポイヤウンベの妹の物語」

ニヴフやウイルタの衣服

アムール川下流地域や樺太に住むニヴフやウイルタの衣服にはアイヌの衣服と異なった形のものがあり、体の前面で左肩から右脇にかけてボタンなどで留めます。素材は木綿もあれば、アザラシなどの獣皮を使ったものもあります。

アエキルシ



ニヴフの衣服(獣皮)

皆さんもぜひ、基本展示室で関心のあるテーマやモノを探してみましょう!

※基本展示室は定期的に展示替えを行っているため、ここで紹介した資料が展示されていない場合があります。

国立アイヌ民族博物館の
収蔵、展示資料をピック
アップして紹介します。

博物館↑ Pickup!

探究展示t.3の動物たち

博物館の基本展示には、さまざまな場所で動物たちに出会うことができます。いちばん目を引くのは、「私たちの世界」にいるヒグマでしょうか？ 展示室内を飛ぶオオワシやエトピリカ、展示ケースやモニタの上で羽を休めるフクロウやミヤマカケスなど、アイヌ文化に関わりのある動物たちが展示されています。

さらに、探究展示t.3でも、たくさんの動物のぬいぐるみたちが出迎えてくれます。いくつかのぬいぐるみにはタグが付いており、その動物とアイヌ文化の関わりについて紹介しています。

博物館の開館前、このt.3には、はく製の配置することが検討されました。しかし、

はく製だとお客さまに気軽に触ってもらうことができません。となれば、ぬいぐるみを…と考え、適当なものを探することに。博物館の展示の一部になるわけですから、あまりデフォルメされているものもふさわしくないと考えました。製作することも検討しましたが、費用面で断念。できる限り実物に近い既製のものを求めた結果、フィリピンのメーカーの製品にたどり着きました。大阪にある代理店に足を運んで選定し、はるばる白老までやってきてもらったのです。実は、一体一体つくりの違いがあって、それぞれ個性があるんですよ。さらに余談ですが、その代理店の倉庫には、等身大のホッキョクグマや

キリンのぬいぐるみもいて圧倒されます。動物が大好きな私は、何時間でもいられるステキな空間です。

コロナ禍を経て、たくさんのお客さまに愛でられてきたぬいぐるみたち。最近では「ケガ」が増えてきました。中の骨組みが折れてしまった子もいて、極力、「治療」や「手術」(修理のこと)をしていますが、なかには治療不可能な骨折をしている子も…。アイヌ文化では、あらゆるものにラマツ(靈魂)が宿るとされています。ぬいぐるみたちにもきっとラマツが宿っていると、私は思うのです。どうか優しく触ってあげてくださいね。

(研究主査 奥山英登)



たくさんの動物たちが迎えてくれる探究展示t.3



背中に乗っかれたのか、足が曲がってしまったオオカミ
優しく触ってあげてくださいね

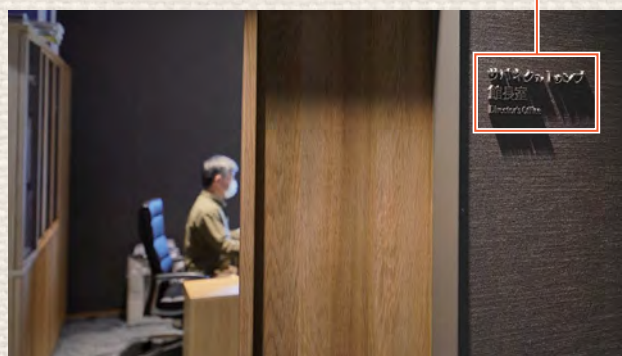
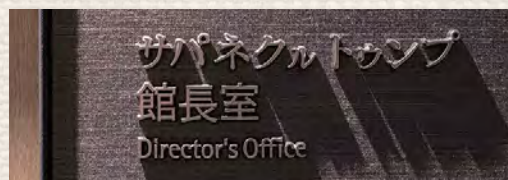
見て見て！ 園内サイン

ウポポイの園内サインをご紹介します、皆さまにより広くアイヌ語を知っていただくコーナーです！

7 サパネクル トウンブ 館長室

サパネクル トウンブは「リーダーの部屋」という表現です。トウンブが「部屋」、サパネクルは「上に立つ人」「リーダー」などという意味で、サパ「頭」・ネ「～である」・クル「人」と分析できます。実はこの表示、アイヌ語のクルが、女性を指すこともあるが男性を指すことが多いとして議論の余地を残しました。近年はあらゆる言語において、ジェンダーニュートラルという男女に偏らない中立的な表現を使おうとする動きが進んでいます。日本語にも多くの事例があり、例えば女性を「看護婦」、男性を「看護士」とは呼び分けず、「看護師」に統一して呼ぶというようなことです。将来的にはアイヌ語もさまざまな選択をしていくことになりそうです。

(研究員 深澤美香)



Report

マキリの製作に関わる調査研究

アイヌ文化における生活用具の研究： イタ、マキリ、タシロの文化的価値

アイヌ文化において、イタ(盆)、マキリ(小刀)、タシロ(山刀)は、暮らしに直結する生活用具であると同時に、高い技術力から生み出された工芸品としての価値を持つ資料です。これらの資料は、その形状、デザイン、製作方法においてさまざまであり、地域による違いや時代による変化が反映されていると考えられています。現在でも伝承者や工芸作家はこれらを意識し、資料の復元、模造、新たな作品製作に取り組んでいます。

研究の目的と意義

このような取り組みに寄与するべく、本研究では資料の彫刻や内部構造に関する調査から、形状や製作技術の違いを体系的に分析し、資料の製作が時代とともにどのように変わっていったのか、またなぜ変わっていったのかその文化的意義を理解することを目的としています。

シタエホリに焦点を当てた調査

研究を進めるにあたり、製作者、製作年代、製作地域などの基礎的情報が明確な資料から調査を進める必要があると考え、シタエホリ作、またはシタエホリの作風をもつマキリに着目しました。シタエホリは19世紀半ばから末にかけて活躍した千島(択捉島内保)出身のアイヌで、松浦武四郎が著した『近世蝦夷人物誌』において、その技術の巧みさから名工として記されています。シタエホリ作と考えられる資料には、北海道大学植物園所蔵のイタと、萱野茂二風谷アイヌ資料館所蔵のマキリがあり、いずれにも「彫刻人 擇捉郡内保村 杉本目出平」の銘が刻まれています。これらの資料はその彫刻技術の高さと、製作地(または製作者の出身)が択捉島内保であることから、「杉本目出平」はシタエホリであると考えられています。また当館には北海道大学植物園のイタと類似したモチーフが彫られた資料があり、裏面には「シタエホリ」の銘

が刻まれています。これもシタエホリ作と推定されます。

表1と図1は日本マキリ研究会の報告を参考に、全体の形状と表面のモチーフに関するシタエホリ作のマキリの特徴をまとめたものです。これらのマキリはその特徴に多くの項目で合致することから、銘はないもののシタエホリ作の可能性が高いと考えられています(図2参照)。一方で、同じようなモチーフがあるマキリは多数、存在しています。これらの中には表で示した形状に合致しないものや、線彫り(筋彫)の均一さ、曲線を表現する彫りの滑らかさといった彫刻技術が明らかに異なるものもあり、シタエホリ以外の製作者によるマキリも多数、存在すると考えられます。

ではなぜ図2のようなシタエホリの作風のマキリが多く存在するのでしょうか。また、このモチーフはシタエホリが始めたものなのでしょうか。さまざまな疑問、興味が湧き上がってきますが、残念ながら

まだ明確に回答と言えるものはありません。本研究ではこれらの疑問に対し、少しでも答えに近づくために、シタエホリの作風があるマキリに対してさまざまな科学分析装置などを用いて、製作に関する情報を集約し解析する作業を進めています。

(研究員 赤田昌倫)



図1 シタエホリ作と考えられている資料



図2 シタエホリの作風があるマキリの特徴 (平取町立二風谷アイヌ文化博物館蔵)

1. 鞘の形状的特徴

①全体形状	鞘の全長と鞘胴部の幅の比率が5:1以上
②腹部	鞘腹部に縦溝の穴
③鞘尻	鞘尻に(方形)の穴

2. 表面の彫りやモチーフ

④表面の最も特徴的な彫刻(模様)	アイウシ様のラインで区画化するような彫り
⑤アイウシの先端部の彫刻(模様)	アイウシの先端は鞘口に向かってモレウが唐草状に発展する彫り
⑥アイウシの内側の彫刻(模様)	アイウシで区画化された内側には草花などをモチーフとした彫り
⑦アイウシの末端部の彫刻(模様)	アイウシの末端から鞘尻にかけて青海波の彫り

表1 シタエホリのマキリの作風(日本マキリ研究会(1)を参考に文言を一部改変)

国立アイヌ民族博物館 第10回特別展示
「開館5周年記念 ウィーン万国博覧会とアイヌ・コレクション —150年の時を超えた帰郷と再会—
 Ainu collection at the Vienna World Exposition of 1873 -Homecoming and Reunion Across 150 Years-
【会期】I期:2025年7月5日(土)~2025年8月31日(日) II期:2025年9月13日(土)~2025年11月16日(日)
【主催】国立アイヌ民族博物館 【特別協力】東京国立博物館 【協力】ベルリン国立民族学博物館、ウィーン世界博物館ほか

1873年、明治政府は国の威信をかけてウィーン万国博覧会に参加しました。ウィーン万国博覧会に向けて収集された資料は、オーストリアに送られたものと現在の東京国立博物館に収蔵されたものに別れました。万博のアイヌ資料は閉会后ベルリンで収蔵されることになり、今回およそ五十年ぶりに北海道に戻ってきます。またその時に集められた東京国立博物館の資料もそれ以来同時に展示されます。本特別展では、ウィーン万国博覧会を起点としたアイヌ・コレクションとその時代背景を紹介します。



ウポポイ 2024年の振り返り

2024年にウポポイで開催したイベントの一部をご紹介します。イベントは皆さまに楽しんでいただくために毎年バージョンアップしています。毎年違った体験ができますのでぜひ何度もお越しください！
 ※最新のイベント情報はウポポイウェブサイトへ。

アイヌ文化×能楽 特別イベント
1/28
 ウポポイで能「舟弁慶」が披露されました。

イラマンテ(狩猟)
2/10~11
 狩猟をテーマにした特別イベント。ヒゲマについて学び、鹿笛も作れる2日間でした。



ゴールデンウィーク
4/27~5/6
 たくさんのお子さんがアイヌ語で挨拶をしてくれました！



夏休みはウポポイ!
8/10~18
 半纏を着て、青空の下で鶴の羽の動きを真似て踊りました！



アイヌアートショー 2024
10/13~14
 毎年恒例の展示販売は大盛況!



ウポポイイルミネーション点灯式
11/22
 白老町内の園児の皆さんとイルミネーションを点灯させました!



今日は一日 ムックリざんまい!
3/23
 ムックリ(口琴)の演奏公演や製作体験などムックリざんまいな一日でした！



ウポポイ祭2024
7/13~15
 「踊りと食」がテーマ。各地のオハウ試食は、整理券がすぐ配布終了になるほどの人気ぶり。



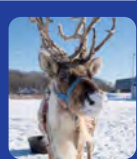
ウポポイの秋
9/14~23
 博物館の特別展示のほか、食にまつわるプログラムも。



ウポポイ無料開放DAY
11/3
 2023年に続き、2024年も来場者は過去最多! たくさんの方に越えられました!



ウポポイ雪の広場 Snow Park in UPOPOY
2/3~11
 さっぽろ雪まつりに合わせてトゥレツポンの雪像が登場。トナカイも初来園!



国立アイヌ民族博物館
ホリデーイベント・ギャラリートーク
 4月から毎週末、さまざまなテーマのイベントや展示室を案内するギャラリートークを開催。



ウアイヌコロ宣言

当財団は、多様な価値観が共生し、アイヌの民族としての誇りが尊重される共生社会の実現を目指すとともに、個人や民族の尊厳を損なうレイシャル・ハラスメント※を許さない旨として、ウアイヌコロ宣言を表明しました。
 ※民族や人種、国籍を理由に暴言、侮辱及び差別的言動を行い個人又は集団の尊厳を害すること
 レイシャル・ハラスメント対策「ウアイヌコロ宣言」 https://www.ff-ainu.or.jp/web/overview/details/post_15.html



NATIONAL AINU MUSEUM
 国立アイヌ民族博物館
<https://nam.go.jp/>

ウポポイ
 NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
 民族共生象徴空間

■お問い合わせ
 公益財団法人 アイヌ民族文化財団(ウポポイ内)
 住所:〒059-0902 北海道白老郡白老町若草町2丁目3番2号
 電話:0144-82-3914 FAX:0144-82-3685
 メール:info@ainu-upopoy.jp

プログラム等の詳しい情報はウポポイウェブサイトをご覧ください。

<https://ainu-upopoy.jp/>

